

平成29年度 一橋大学公開講座

「統計と日本の近代化」

日本が近代国民国家を形成するにあたり、支配する国土、住民等を数量的に把握するため、明治国家は西欧から統計学及び統計調査の技法を輸入して、それらを日本に根付かせていく必要がありました。欧米列強による植民地化の危機が迫る中、それは急を要する仕事でした。

今回のシンポジウムでは、このように西洋から輸入された統計学はどういったものだったのか、統計調査を実施する専門家たちはどのように養成されたか、そして調査実施のあり方は時代とともにどう変化したかという3つの側面から、日本の近代化における統計調査制度の形成の過程を見ていきます。

平成29年

12月2日(土) 14:00—17:00

一橋大学国立西キャンパス 本館21番教室

[JR中央線国立駅下車 南口徒歩7分] [JR南武線谷保駅下車 北口徒歩20分]

参加費 無料 定員 250名 [定員になり次第受付終了]

主催 国立大学法人一橋大学

後援 国立市、小平市、立川市、国分寺市、府中市、武蔵村山市各教育委員会

プログラム

司会 佐藤 正広 (一橋大学経済研究所教授)

講演

上藤 一郎 (静岡大学人文社会科学部教授)

山口 幸三 (京都大学大学院農学研究科特定准教授)

佐藤 正広 (一橋大学経済研究所教授)

討議及び質疑応答

上藤 一郎 (静岡大学人文社会科学部教授)

山口 幸三 (京都大学大学院農学研究科特定准教授)

佐藤 正広 (一橋大学経済研究所教授)

申込方法

事前申し込みが必要です。

右記URLお申し込みフォームからお申し込みいただくか、氏名・所属・連絡先を明記の上、FAXにてお申し込みください。

<https://hrs.ad.hit-u.ac.jp/v33/entries/add/63>

FAX 042-580-8050

一橋大学公開講座

検索

